第3回　山口塾書道展　出品一覧

出品者（展示順）	作　　品	サイズ
萩原　伊沙	金平糖の夢　（金子みすゞ詩） 莱子侯刻石 おかあさんの膝　（新川和江詩）	半切 全紙 1/2 全紙
塙　久子	雲雀（ひばり） カ文公子キ鼎 荷心香 暮　鐘　（土井晩翠詩）	180×96cm 105×55cm 全紙 全紙 1/2
山口　紅雪	南無阿弥陀佛 魔訶般若般波羅蜜多心経	半切 全紙
山口　歡一	六曲一双屏風 威曜朗十方 天地一杯 歡一のつぶやき	屏風 半切 半切 半切
植田　愚海	心機一転 貝　殻　（新美南吉詩） 自分にいまこそ言はう（山村暮鳥詩）	半切 全紙 1/2 半切
小宮山　千雲	乙瑛碑 渾身満力 浮　雲 戯中更有戯 高　臥	半切（軸） 半切（軸） 全紙（軸） 半切（軸） 全紙（軸）
鹿志村　久美子	風ムシムシとあつく (青木繁の手紙から） 海　（小川洋子さんの短編から） 莱子侯刻石	全紙 全紙 全紙 1/2
清宮　寿子	命 莱子侯刻石 大人盤　（散氏盤　臨書） 風 あい	70×68 全紙 1/2 160　×　75cm 100×97cm 160×75cm

第 3 回
山口塾書道展

作品目録

平成 25 年 3 月 24 日（日）～3 月 30 日（土）

東海ステーションギャラリー（A）

〒319-1114　茨城県那珂郡東海村須和間 174-28
TEL 029-283-1479
代表　山口　紅雪

御　挨　拶

塾長歓一が逝ってもう三ヶ月余、ここに第３回山口塾書道展を開催することが出来ました。これひとえに塾生一同の努力は勿論のこと、回りの方々の暖かいお心に支えられてのことです。

力不足の面はご容赦いただき、「生きるための書を作る」といった歓一の意思をついで努力した一同の足跡です。どうぞご批評・ご鞭撻の程をお願いいたします。

平成 25 年 3 月 24 日　　山口　紅雪

第2回山口塾書道展の宣言

宣　　言

第2回山口塾書道展に際し、山口塾書道展の在り方を宣言したく思います。

山口塾の存在を意義づけるとすれば、「人間らしく生きるのにはどうあらねばならないか」を考える、その上に立って

「書をどう意味づけするか」 ⇒ 「人間 生きるための書を作る」

でありたい。

今回は書道展ですが、その他の勉強もする！

「人間どうあらねばならないか？」を絶えず考え実行する集団でありたい。

命の輝きを金子みすずさんは 『みんなちがってみんないい』 と表現されました。また更に、人間は生きていくうえで余分なものは一つもない。今で充分の世界があるのです。こういう世界の輝きを表現したい。幸い我が「山口塾生」は、みんな輝きみんな個性豊かに暮らしております。そういう生き様を世に問うのが 「山口塾書道展」 でありたい。

手本のない、手本を作らない「山口塾」。その山口塾長のもとに提出された作品は塾長の予想を超えたものばかり。それでいいのです。書道と云っても『書』の枠をこえたような作品に、塾長はいつも眼をパチクリパチクリしています･･･？また、それを大いに楽しんでもいます。われらの山口塾展は個性が絡み合っている人間集団であり書道展でありたいと願います。

今日も又とんでもないものを提出して「先生これだせますか？！」

塾長はうーんとうなって････？？？～～～～！！！

『みんな違ってみんないい、みんな輝いて行こう』

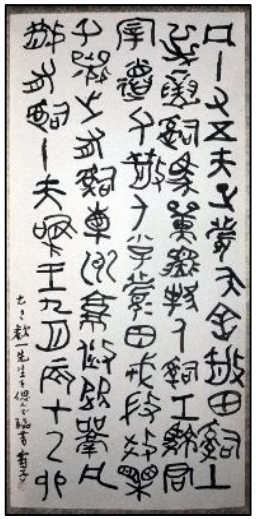
こういう事は、生きる上で大切な事と思っています。

今回の山口塾展も、こういう展開ができたら望外の幸せです。

平成 23 年 2 月 27 日　　塾長　山口　歡一

【命】（70×68cm）

【萊子侯刻石】（全紙 1/2）



【大人盤】（160×75cm）

【風】（100×97cm）

【あい】（160×75cm）

＜清宮　寿子＞

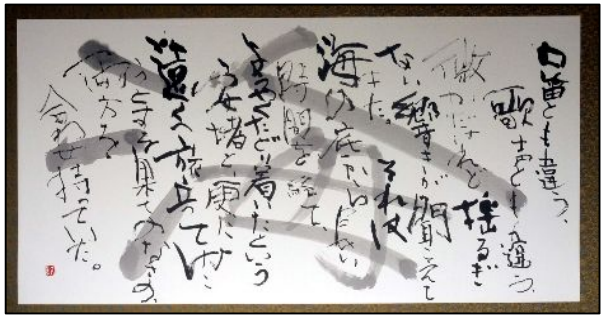
昨年から金文の臨書をかなり精力的に繰り返した。線の表情が鮮やかに一画ごとにちがっていて、その変幻自在さには汲めども尽きぬ魅力を感じるが、作品制作について何を表現したいのかが最も重要なことである。

【あい】と【風】に関しては、昨年後半歓一先生をはじめ親しい人を数人亡くした。失意に陥っていた自分を平常に戻してくれたのは隣人の愛だった。又、亡くなった人は風に乗っていつも私の心の中に生きている。

【萊子侯刻石】は、拓本の独特な面白さに引きこまれ臨書して、次回の教室の時、評価の是非を伺おうと思っていた矢先の先生の訃報だった。

昨年暮れから父の容態が悪化し、入退院と介護施設の入退所の繰り返しであった。時間的制約の中で作品制作は時には集中できずあきらめかけたりしたが、細切れ的な時間の中で何とか形だけでもできたので、社中の仲間の方に迷惑をかけずに済んだという安堵感にひたっている。

【風ムシムシとあつく】～青木繁の手紙から～（全紙）



【海】～小川洋子さんの短編から～（全紙）

【萊子侯刻石】（全紙 1/2）

＜鹿志村　久美子＞

私の書がただ一つだけ山口先生に評価された？こと、「他の人には書けない書だなあ・・・」褒められているのか、？？？いっぱいであったけれども、その言葉を糧に書を続けてきたようにも思う。今の私にとっての書は、心に留まった言葉や文を反芻する機会である。自分の言葉を私にしか書けない書で表せるようになったら最高である。

【風ムシムシとあつく】 ～青木繁の手紙から～

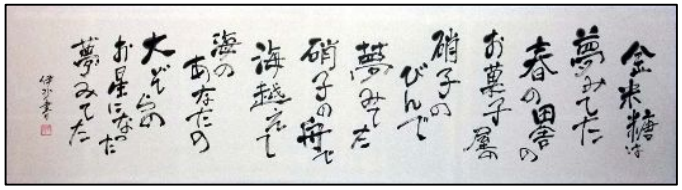
「砂ジリジリとやけて　風ムシムシとあつく　なぎたる空！　はやりたる潮！」

自分の才能を信じ、やるぞ！というエネルギーが伝わってきた。とにかく力強く、荒々しく書きたかった。

【海】～　小川洋子さんの短編から　～

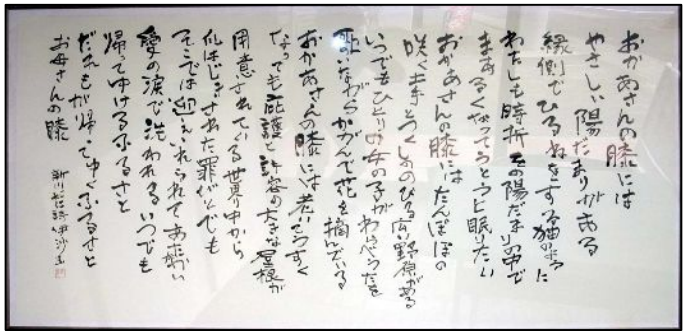
永久の時間ととてつもなく広い空間を感じる文である。海の奥深いところから響いてくる音を表現したかった。

第３回山口塾書道展



【金平糖の夢】（金子みすゞ詩）（半切）

【萊子侯刻石】（全紙 1/2）



【おかあさんの膝】（新川和江詩）（全紙）

＜萩原　イサ子＞

書との出会いからもうすぐ２０年余りになります。

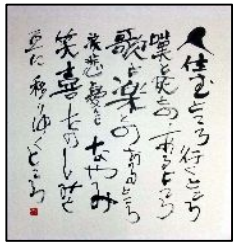
習い始めた頃より最近は筆を持つ事が少なくなっています。反省しているところです。

展覧会の作品は漢字作品を苦手にしているので、いつも詩文の作品になってしまう点が反省点です。

【雲雀】（180×96cm）

【カク文公子キ鼎】
（105×55cm）

【荷心香】（全紙）



【暮鐘】（全紙 1/2）

＜塙　久子＞

【雲　雀（ひばり）】

春は、明るく陽気なイメージですが、万葉集の頃は、春の雲雀に、なぜか、もの悲しさを感じているようです。探しても姿が見えないからでしょうか。

【カク文公子キ鼎】

中国古代の青銅器に刻まれた銘文。金文または鐘鼎文（しょうていぶん）と呼ばれ、文字の大小や字並び、線質に特徴があります。おおらかさ、ほほえましさを感じます。

【荷心香（かしんかんばし）】　簡文帝　句

「荷」とは「蓮」のこと。蓮の花は、泥中にあっても、いつか必ず芽を出し、香り高く美しい花を咲かせるという意味から「生きる」について導いてくれる句です。華やかさと力強さが表現できたら…。

【暮　鐘】土井晩翠　詩（一部抜粋）

昨年、この詩に共感し何気なく選んだ詩。先生から「線質をもっと鍛えて」など貴重なアドバイスを頂きながらやっと書き上げた作品。内容的に出品するかどうか迷いましたが、思い出もあり意を決して出しました。

第３回山口塾書道展

【乙瑛碑】
（半切）

【渾身満力】
（半切）

【浮雲】（全紙）

【戯中更有戯】
（半切）

【高臥】（全紙）

＜小宮山　千雲＞

書を始めた動機はうまくなりたかったからです。特に人前で書くときは何故かうまく書こうとして、書く内容より上手に書くことに神経を注いだこともありました。１０年ほど書道のお稽古を続けたがやっぱりうまくならなかった。それでも止めずに書の稽古を続けたらあっという間に２０年が過ぎた。こんなに長く続けられたのも故山口歓一先生が自分流の字を書くことを教えてくれたからです。

色々の書家の作品や書道展覧会に行き多くの作品を見ているうちにうまくはないが心に残る作品があることに気付いた。特に中川一政先生や今井凌雪先生の作品が好きになってきた。

それから最近では大きい字を書くことの楽しさもだんだんと分かってきたような気がします。今回の展覧会では自分流の字を書くように心がけて見ました。

【乙瑛碑】　隷書で纏めた作品。隷書の特徴は横画の末に三角のひげのような装飾がつく。この技術が難しい。また、先生より線に張りがないので張りを出すようにと指導をうけたができなかった。

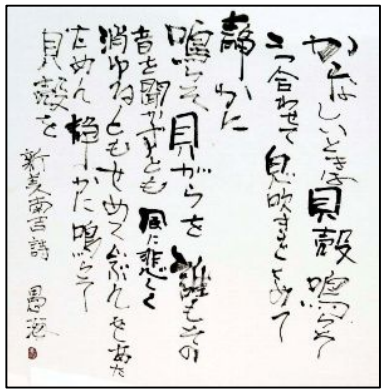
【渾身満力】　半切に 4 文字、縦書きで作品を作った。字が大きいので形を作ることに苦労した。題名の 4 文字は画家：中川一政氏が愛した言葉で全身全霊を意味する。

【浮　雲】　二葉亭四迷の小説の題名。墨量を多く筆に含ませて、ゆっくりと書いてみた。イメージとして大空に重厚な雲がそびえている感じを出したかったが。

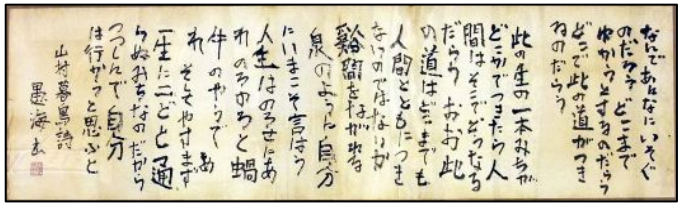
【戯中更有戯】　文字の画数が多いので太い線、細い線を混ぜ合わせて作品をまとめた。この作品も字形は自分流。

【高　臥】　高臥とは俗世間を離れて、心を高く持って山野などに密かに暮らすこと。擦れを多く使って自然のままの山奥を表現しようと試みた。

【心機一転】　（半切）



【貝殻】（新美南吉詩）（全紙 1/2）



【自分にいまこそ言はう】（山村暮鳥詩）（半切）

＜植田　愚海＞

【心機一転】

今年の書初めの言葉です。まさに字のごとく気持ちを切り替えてよき方向に向かってゆこうとの想いから揮毫しました。昨年、山口歓一先生が亡くなり、精神面で心の支えが折れました。とは言ってもこのまま萎えてゆく訳にはゆきません。１月から職場も変わり、一層気持ちの入れ替えを意識します。

【貝殻】(新美南吉詩)

この詩の作者、新美南吉さんは『ごん狐』や『手袋を買いに』などが有名です。

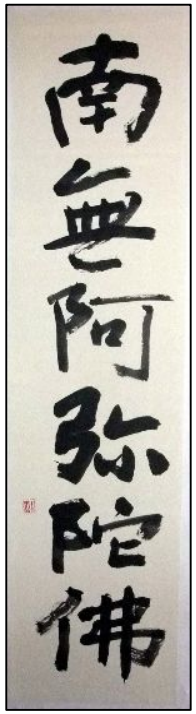
声なき物の声を聴く。昔のころを想い出し浮かんだ事柄や情景を懐かしむのが愉しいひと時です。

【自分にいまこそ言はう】（山村暮鳥詩）

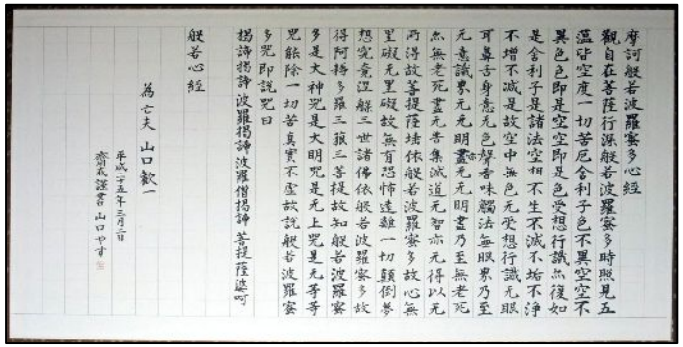
日頃から時間に追われ目標だの成果だの目まぐるしい現代社会です。今の世の中、ごく当たり前のスタンス、心構えですが、やはり立止まる事も大事かな…。

今回使用した画仙紙は清代（約 100 年前）の貴重な紙です。せっかく入手できたので、じっくり書きたいですね。

第３回山口塾書道展



【南無阿弥陀佛】（半切）



【般若心経】（全紙）

【般若心経】（部分）

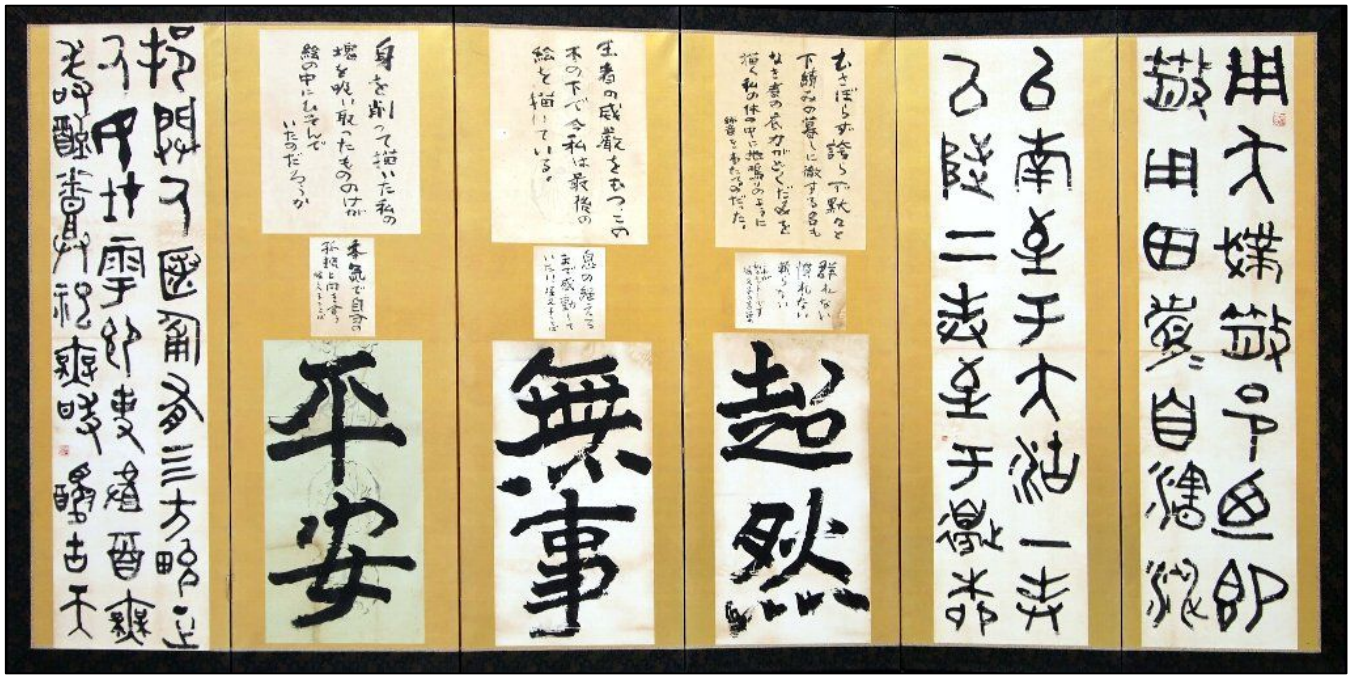
＜山口　紅雪＞　【南無阿弥陀佛】　【般若心経】

ひと言：

ナムアミダブツ（佛さまにおまかせします）と唱えながら、半分どこかでうらみの涙を流す。そんな自分の心を鎮める為に般若心経を書きはじめました。そのうちこれを大きく書いて私の責務果たそうなんて、ごめんなさい。作品になりませんね。

作品にしてみたかったのは「寂光（じゃっこう）」安らかで静かな光、生滅を超えた真の知恵がかがやいていること…でも作品を書くまでの心にはいたりませんでした。

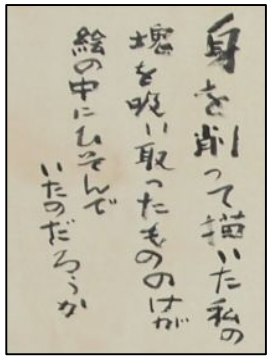
第３回山口塾書道展



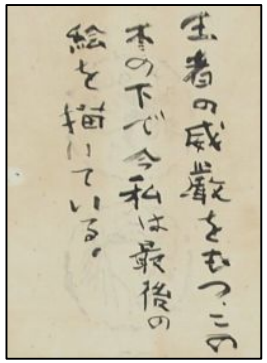
【六曲一双屏風】（全紙）

【威曜朗十方】（半切）

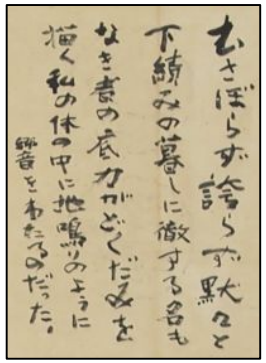
【天地一杯】（半切）



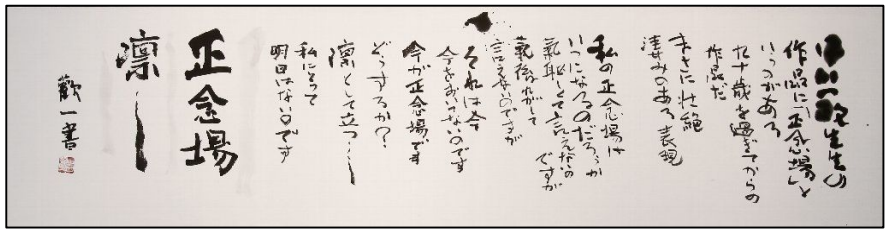
【屏風】（部分１）



【屏風】（部分２）



【屏風】（部分３）



【歡一のつぶやき】（半切）

＜故　山口　歡一＞

【威曜朗十方】　「佛さまの世を超えたかがやきは、十方世界に朗々とひびきわたる」の意。その光に触れた私も憂悲苦悩の雲が消え、心はればれ、心朗らかになってゆく。無量寿経の中の１句。